

平成25年度のスタートにあたって

桜は満開の時期を過ぎましたが、街中には春の花々が美しく咲き誇っています。新年度が始まり、進級した子どもたちは新たな気持ちで新学期のスタートを切りました。児童数は五百余名となります。また、本校では都合13名の教職員が着任し、新しい組織で教育活動を展開していきます。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、稗田小学校では、長年にわたって、「みんなで一考える子・なかよくする・がんばる子」といった子ども像を目標に掲げ取り組んできました。今年も基本的にこの目標を継承しながら、基礎的な学力の定着や豊かな表現力の育成、気持ちのよいあいさつ、明るい返事、また、人へのやさしさ・思いやりの心やねばり強さなどを指導のポイントにしていきます。学校の教育は知育・徳育・体育の3分野をそれぞれ関連付けながら指導していくことでトータルとしての「学力」が身につくように展開されてきました。本校の「考える子」は主に知育の観点から、「なかよくする子」は徳育、「がんばる子」は体育の観点から設定されています。国語や算数などの教科の学習の中で基礎基本を学び、それを土台にして課題を広く深く考える力を培う。また、学校生活を通じ道徳教育の一環として友達と互いになかよく助け合い、支え合う力を養う。さらに保健や体育を中心に、自らの健康維持・増進、体力向上へ向け最後まで粘り強くがんばる力をはぐくむ。集団生活を行っているからには、「みんなで」これらの力が身につくようにしていきたい。今年度、私たちが目指す稗田教育の概要はおよそ以上のおりです。学校の目標に沿って各学年で目標を定め、それを達成するための手立てを講じていきます。今後、教育活動を展開する中で、子どもの姿に基づいてその手立てを評価し目標達成の度合いを検証のうえ、教育改善につなげていきたいと考えます。

私は教職員に対し、折に触れ「子どもにとってよりよいことをなすことが我々の使命だ」と言っています。実際、教職員は子どものことを考え、一生懸命がんばっています。「それは当たり前のことでは？」と言われそうですが、今年度も、子どもにとってよかれと当たり前ががんばるこの教職員集団に信を置き、一丸となって稗田教育を推進していく所存です。ただ、学校職員の力だけではなかなか目標達成にはつながりません。「子どもにとってよりよいことをなす」ためにはこれまで同様、どうしても保護者・地域の皆さんのお力添えが必要です。学校や学校職員に対してご意見、ご不満はおありかと思えます。が、どうか教職員の「子どもに対する懸命さ」をご理解いただき、要求の突き付け合いや非難・批判の出し合いといった不毛の関係ではない、同じ目的をもつ「子育てチーム」として子どものことを一緒に考え合う関係であり続けたいと願っています。